

Pick Up News

後期がスタートしました。それぞれの目標に向けて、実りの多い時間として下さい。4年生、修士2年にとっては、大学生生活集大成の時間です。悔いの残らないように、一日一日を大切に過ごして下さい。

さて、前号に続いて今号も「大学院特集」です。3年生はそろそろ進路を考える時期。ぜひ大学院も選択肢に入れてください。5月の春季学内推薦選抜、8月の1期試験(推薦・一般)、翌年2月の2期試験(推薦・一般)とチャンスは何回もあります。建築学科ではGPA2.2以上が推薦枠(筆記試験免除)の条件となります。

- Q1. なぜ大学院に来たのですか?
- Q2. 大学院ってどんなところ?
- Q3. 大学院と学部の違いは?
- Q4. 大学院に来て良かったことは?
- Q5. 後輩に向けて

1. 建築設計に関わる仕事をしたいと考えており、そのためには大学院に進むことが可能性を広げる一つの手段であると考えたから。また、仕事をしてからではあまり時間が取れないが、大学院は授業がそこまで多くはないので自分のやってみたい研究などに時間を費やすことができると思ったから。
2. 学部は試験で良い点を取ってそれが成績に繋がる、定められた基準の中での話だが、大学院は事象に対して様々な考えを持つこと、色々な人と考えを共有することで考えを深めることがより重視される。
3. 少人数であること。それによって積極的に外部に見学に出かける講義もあれば、ディスカッションの機会が多い講義もある。多くの場合一方通行である学部の講義に対して先生とのやりとりの機会が多い。また、プレゼンがある授業もあり、人にうまく伝えるにはどうすれば良いのか設計課題発表以外の場面でも思索する機会がある。
4. 学部とは異なる内容の講義を通してスキルアップに繋がったこと。自身が興味ある内容について研究する時間が取れたこと。
5. あくまで大学院は選択肢の一つ。自分の進路によって必要に迫られる場合もある。ただ一つ言えることは志を持って進学すれば大学院を選択肢して後悔することはない。(M1 藤森毅)

1. ゼミの研究が楽しく、もっと学びたいと思ったこと、学部の知識だけではまだまだ足りないと思ったことが進学を決め手。
2. 自分との関いの場。
3. 様々な機会が圧倒的に増えた。
4. より専門的な知識などを学びながら、自分でやりたいことができる時間をしっかりと確保できること。
5. 工大は設備が充実していて先生方も揃っていますが、院生の数が少ない、進学して一緒に大学を盛り上げてみませんか?(M1 阿部伸)

1. 学部の時に自身では、勉強したりないと感じたので、もう少し建築の勉強をして、理解を深めたかったから。
2. 自分の研究したいこと集中する。知識がさらに増える。
3. 知識の量が違う。学部生より、授業や研究活動で忙しいと感じる。
4. 社会に出る前の自分を見つめ直すきっかけになる。学部の時より、細かいところまで、授業で学べる。
5. 大学院進学も進路選択の一つとして考えて下さい。(M1 久保田美紀)

1. 建築意匠を深めたかった。多くの実施設計に携わりたかったから。
2. 講義や研究活動を通して様々な人と関わることで、多様な価値観を学べる。
3. 自由な時間がある。
4. 人の繋がりが増えた。
5. 大学院は絶対おすすめ。学部では学べないこと沢山あり、社会に出る前に少し自分と向き合える時間ができる。(M2 藤森未和)

1. 学部ではまだ自分自身の将来やるべき事がまだハッキリしなかったことがまず一つ目。二つ目は自分の追求したいテーマを深く考えた時、まだ学びきれていない事、もっと追求したい事がたくさんあると感じたから。また大学院に進学することでより多くの知識を吸収しそれを、研究という形で出せることに魅力を感じた。
2. 時間をかけて一つのテーマを考えることができます。私は建築だけでなく民俗学・宗教学と興味がたくさんあるため、ひとつのことだけでなくたくさんの方に時間を充てることができます。
3. 自分で知識を吸収しに走ること、学部生では与えられたことを調べてみたり本の輪を広げてみたりしますが、院生ではそのツールだけでは足りないためより多くの資料と論文、文献を必要とします。
4. 学部4年のテーマをより今深く研究するために邁進しています。やりたかったこと、興味のあることを自分の時間で自分なりに進めることができ毎日充実していると感じています。
5. 就職をした同級生の話やきくと、その道も良かった。と感じますが、なにか学部の時に引っかかったテーマ、やり残したことが少しでもあるなら進学という時間の使い方もあると思います。人生の時間は一度きり。よく考えて生活してみると答えが分かるのかと思います。(M1 小笠原玲子)

1. 自分の専攻分野について専門性を高めたいと思ったため。
2. 少人数体制。授業や研究活動で学外にでることが多く、見識を広げられる機会が多い。
3. 自分の意見を述べる機会が多くなりました。授業内でのプレゼンテーションが多い印象。そのぶん自分で調べることも多くなりました。
4. 物事を捉える視点を養えていること。
・新聞記事を批判的に読み解く授業
・災害公営住宅を訪れて計画上の良い点や改善点をまとめるレポート
・建築家の発言や考え方を解釈して、どのような人物であるか学ぶ授業 など、学部とは全然異なる授業で、良い学びになっています。
5. いろんなことにアンテナを張って、気になったことは調べる、ということをしていると良いと思います。これは、自分が学部時代にやっておけばよかったと思うことで、学部時代にできなかった分、現在実践しています。(M1 佐々木七波)

1. 学部の時に取り組んだ研究の継続と、より時間をかけて建築分野について学びたいと思ったため。
2. 各講義の内容がより充実しており、自分の意見を考えてまとめる機会が多い。
3. 少人数講義になるため先生との距離が近くなり、気軽に質問等ができる。
4. より時間をかけて専門分野に関する知識等に触れられること。
5. 今できることを少しずつ積み重ねていく姿勢を大切に!(M2 青木信)

Pick Up Lab.

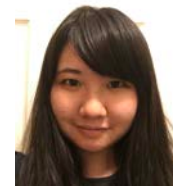
今年の大沼研究室4年生は、女子学生4人を含む11人で活動しています。木造住宅の耐震性能改善に関する研究や、混合構造に関する研究や、三次元立体振動解析による耐震性能向上の研究等、建築構造を幅広く学べる研究室です。最近はいまだに新しいタイプのあと施工アンカーに関する実験研究に取り組んでおり、トンネルの天井落下事故などを起こさない、確実に安全性が確保できるあと施工アンカーの開発やこれらの試験方法なども研究しています。



実験の様子



実験室にて



3年 後藤 瑛さん
宮城第一高校 出身

Pick Up Student

建築学科に入学してから2年半が過ぎ、いつの間にか大学生活も残すところ半分以下となってしまいました。入学してからしばらくの間は様々なことをこなすことしかできず、受動的に課題や勉強をしていたように思います。しかし学年が上がるにつれ慣れたこともあるのか余裕が生まれ、様々なことに主体的、積極的に取り組めるようになってきました。私は前回の春休みに建築学科のヨーロッパ研修に参加し、約二週間の日程の間、それまで私の中でメディアの中の世界であった様々な建築を肌で感じ、とても有益な時間を過ごすことができました。大学生活は多くの人にとって人生最後の学生生活です。学生の間でしかできない経験を、これからも積み重ねていきたいと思っています。



1年 鞠子 楊太郎さん
仙台城南高校 出身

Pick Up Student

私は物をつくる事が好きで、建築を学びたいと思い入学しました。大学に入学してからの半年間は、高校までとは違うシステムや講義を理解すること、そして新しい環境に慣れていくので精いっぱいでした。しかし課外活動での家の再生プロジェクトや様々なワークショップなど、大学でしかできないような事を通して建築を実体験することで、新たな発見ができました。このような経験を積むことを必ず自分のプラスにし、また将来に役立てていきたいです。私はまだ、将来については、はっきりと決まっていますが、だからこそ、これからも沢山の事に興味を持ち積極的に挑戦していきたいです。また、その気持ちを大切にします。